1700/6892

日本国特許

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

PCT/JP00/06892

PEC'D 28 NOV 2000

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 額 年 月 日 Date of Application:

1999年10月 4日

4

出 願 番 号 Application Number:

平成11年特許顯第282577号

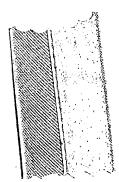
出 願 人 Applicant (s):

日本曹達株式会社



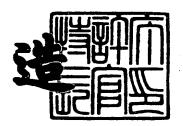
PRIORITY DOCUMENT

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)



2000年11月10日

特許庁長官 Commissioner, Patent Office 及川耕



【書類名】

特許願

【整理番号】

99A29

【あて先】

特許庁長官殿

【国際特許分類】

G036*~5/16

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県市原市五井南海岸12-54 日本曹達株式会社

機能製品研究所内

【氏名】

肥高 友也

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県市原市五井南海岸12-54 日本曹達株式会社

機能製品研究所内

【氏名】

佐藤、真一

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県市原市短井南海岸12-54 日本曹達株式会社

機能製品研究所内

【氏名】

川上:匡

【特許出願人】

【識別番号】

000004307

【氏名又は名称】 日本曹達株式会社

【代理人】

【識別番号】

100096482

【弁理士】

【氏名又は名称】 東海 裕作

【選任した代理人】

【識別番湯】

100113860

【弁理士】

【氏名又は名称】 松橋 泰典

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 005256

【納付金額】

21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】

明細書 1

【物件名】

要約書 1

【包括委任状番号】 9906184

【プルーフの要否】

要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 フェノール性化合物及びそれを用いた記録材料

【特許請求の範囲】

【請求項1】一般式 [I]

【化1】

$$\begin{array}{c|c}
R^{3} & & \\
 & \downarrow \\
R^{4} & & \\
\end{array}$$

$$\begin{array}{c|c}
 & & \\
 & \downarrow \\
 & \downarrow$$

[式中、 R^1 、 R^2 は、水素原子、 C_1 ~ C_6 アルキル基を表し、

 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 は水素原子、水酸基。カルボキシル基。スルファモイル基、ハロゲン原子、 $C_1\sim C_6$ アルキル基。 $C_1\sim C_6$ アルコキシ基。 $C_1\sim C_6$ アルコキシカルボニル基を表し、

YはCOまたはNR⁵COを表し、

 R^5 は水素原子、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基準置換されていてもよいフェニル基、置換されていてもよいベンジル基を表し、

ZはS、SO、SO₂を表し、

nは1~6の整数を表し、

 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 はそれぞれ同一でも相異なっていてもよい。

ただし、YがCOのとき、 R^3 、 R^4 のどちらか一方は水酸基であり、二つが同時に水酸基であることはない。

Yが $NR^{7}CO$ のとき、 R^{3} 、 R^{4} 、 R^{5} 、 R^{6} のうち少なくとも一つは水酸基である。] で表わされるフェノール性化合物。

【請求項2】 発色性染料を含有する記録材料において、一般式 [I]

【化2】

$$\begin{array}{c|c}
R^{3} & & \\
 & \downarrow \\
R^{4} & & \\
\end{array}$$

$$\begin{array}{c|c}
 & & \\
 & \downarrow \\
 & \downarrow$$

[式中、 R^1 、 R^2 は、水素原子、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基を表し、

 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 は水素原子、水酸基、カルボキシル基、スルファモイル基、ハロゲン原子、 $C_1\sim C_6$ アルキル基、 $C_1\sim C_6$ アルコキシ基、 $C_1\sim C_6$ アルコキシカルボニル基を表し、

YはCOまたはNR⁵COを表し、

 R^5 は水素原子、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基、置換されていてもよいフェニル基、置換されていてもよいベンジル基を表し、

ZはS、SO、SO₂を表し、

nは1~6の整数を表し、

 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 はそれぞれ同一でも相異なっていてもよい。

ただし、YがCOのとき、 R^3 、 R^4 のどちらか一方は水酸基であり、二つが同時に水酸基であることはない。

YがNR 7 COのとき、R 3 、R 4 、R 5 、R 6 のうち少なくとも一つは水酸基である。] で表わされるフェノール性化合物の少なくとも一種を含有することを特徴とする記録材料。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】

本発明は新規なフェノール性化合物、およびそれを含有した画像の保存安定性に優れた記録材料に関する。

[0002]

【従来の技術】

発色性染料と顕色剤との反応による発色を利用した記録材料は、現像定着等の 煩雑な処理を施すことなく比較的簡単な装置で短時間に記録できることから、ファクシミリ、プリンター等の出力記録のための感熱記録紙又は数枚を同時に複写 する帳票のための感圧複写紙等に広く使用されている。これらの記録材料として は、速やかに発色し、未発色部分(以下「地肌」という)の自度が保持され、又 発色した画像の堅牢性の高いものが要望されているが、長期保存安定性の面から 、特に画像の耐光性に優れた記録材料が求められている。そのために、発色性染 料、顕色剤、保存安定剤等の開発努力がなされているが、発色の感度、地肌並び に画像の保存性などのバランスが良く、充分に満足できるものは未だ見出されて いない。

[0003]

本願発明に関連する化合物として特開平2-204091号公報やおよび特開平1-72891号公報にフェノール性化合物が顕色剤として開示されているが、更に地肌及び画像の保存性について高い効果を示す優れた記録材料を提供する技術が求められている。

[0004]

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、前記のような従来の記録材料が有する欠点を改善し、発色感度が高く、かつ地肌及び画像の保存性が優れた記録材料を提供することにある。

[0005]

【課題を解決するための手段】

本発明は一般式 [I]

【化3】

$$\begin{array}{c|c}
R^{3} & & \\
P^{4} & & \\
R^{4} & & \\
\end{array}$$

$$\begin{array}{c|c}
R^{5} & \\
R^{2} & \\
\end{array}$$

$$\begin{array}{c|c}
R^{5} & \\
R^{6} & \\
\end{array}$$

$$\begin{array}{c|c}
R^{6} & \\
\end{array}$$

[式中、 \mathbf{R}^1 、 \mathbf{R}^2 は、水素原子、 $\mathbf{C}_1 \sim \mathbf{C}_6$ アルキル基を表し、

 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 は水素原子、水酸基、カルボキシル基、スルファモイル基、ハロゲン原子、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシ基、 $C_1 \sim C_6$ アルコキシカルボニル基を表し、

YはCOまたはNR⁵COを表し、

 \mathbb{R}^5 は水素原子、 \mathbb{C}_1 \sim \mathbb{C}_6 アルキル基、置換されていてもよいフェニル基、置換されていてもよいベンジル基を表し、

ZはS、SO、SO2を表し、

nは1~6の整数を表し、

 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 はそれぞれ同一でも相異なっていてもよい。

ただし、YがCOのとき、 R^3 、 R^4 のどちらか一方は水酸基であり、二つが同時に水酸基であることはない。

Yが NR^7CO のとき、 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 のうち少なくとも一つは水酸基である。] で表わされるフェノール性化合物、およびそれらの化合物のうち少なくとも一種を含有することを特徴とする記録材料である。

[0006]

ここで一般式 [I] において、

 R^1 、 R^2 としては水素原子;メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、s e c - ブチル基、t e r t - ブチル基、n-ペンチル基、イソペンチル基、ネオペンチル基、t e r t -ペンチル基、n-ヘキシル基、イソペンチル基、1-メチルペンチル基、2-メチルペンチル基等の $C_1\sim C_6$ アルキル基、

 R^3 、 R^4 、 R^5 、 R^6 としては、水素原子、水酸基、カルボキシル基、スルファモイル基;フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子等のハロゲン原子;メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、s e c-ブチル基、t e r t - ブチル基、n-ペンチル基、イソペンチル基、ネオペンチル基、t e r t -ペンチル基、n-ペンチル基、イソペンチル基、1-メチルペンチル基、2-メチルペンチル基等の $C_1\sim C_6$ アルキル基;メトキシ基、エトキシ基、n-プロポキシ基、イソプロポキシ基、n-ブトキシ基、s e c- ブトキ

シ基、 $tert-ブトキシ基等のC_1\sim C_6$ のアルコキシ基;メトキシカルボニル基、エトキシカルボニル基、プロポキシカルボニル基、イソプロポキシカルボニル基等の $C_1\sim C_6$ アルコキシカルボニル基;

 R^7 としては、水素原子;メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基。s e c - ブチル基。t e r t - ブチル基、n-ペンチル基、t - ペンチル基、t - ペンチル基等のt - t - ペンチル基;置換されていてもよいベンジル基を挙げることが出き、該置換基としては、水素原子、水酸基;フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子等のハロゲン原子;メチル基、エチル基、t - プロピル基、イソプロピル基、t - ブチル基、t - アルチル基、t - オーペンチル基、t - ペンチル基、t - ペンチルスンチル基、t - ペンチル基、t - ペンチルスンチル基のt - t

[0007]

【発明の実施の形態】

本発明で使用する一般式[I]で表わされる化合物のうちZがSの化合物は、一般式[II]

【化4】

$$\begin{array}{c}
R^{3} \\
Y + \begin{pmatrix}
R^{1} \\
C \\
R^{2}
\end{array}$$
[II]

[式中 R^1 、 R^2 、 R^3 、 R^4 、Y、nは前記と同じ意味を表し、Xは塩素原子、 臭素原子等のハロゲン原子を表す]で表わされる化合物と、 一般式 [III] 【化5】

$$HS \longrightarrow \mathbb{R}^5$$
 [III]

[式中、 R^5 、 R^6 は前記と同じ意味を表す]で表わされる化合物とをメタノール等の有機溶媒中、塩基の存在下で反応させることにより得ることができる。

Zが、SO、SO₂の化合物は、上記方法で得られた化合物を、適した溶媒中で、過酸化水素水またはm-クロロ過安息香酸等の酸化剤で酸化することにより得られる。

[0008]

このようにして合成することができる化合物を第1表、及び第2表に示した。

[0009]

【表101】

| | | | | | _ | | | | | | | | | | | | |
|-----|-------------|------|-----------|----|----|----------|----|-----|--------|-----|----|-----------------|-----|-----|-----------------|-----|----|
| | | | -9 | Ξ | Η | Ξ | I | 포 | I | Ŧ | I | I | Н | ェ | I | Ŧ | 푀 |
| | | | 5- | Н | H | Œ | Н | H | Ĥ | æ | H | Ħ | H | I | Œ | H | I |
| | | R.R | 74- | I | Н | Η | НО | НО | HO | HO. | НО | Ю | HO | HQ) | HQ | H0, | ᆼ |
| | | | မ | Н | I | н | Н | Н | Н | Н | H | Н | Н | I | Н | Н | Ξ |
| | ى ھ | | 2- | H | Н | Н | Н | H | I | Н | I | I | Н | H | I | Н | H |
| | | 1 | 7 | S | SO | so_{2} | S | os | so_2 | S | SO | SO ₂ | S | SO | SO ₂ | S | SO |
| | | | = | 1 | 1 | ŀ | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 |
| 第1表 | -R | 2 | ב | H | Ξ | H | Н | , н | I | Н | Ι | H | H | 1 | I | H | Ξ |
| | 0= <u>Q</u> | 7 | צ | Н | Н | I | 1 | H | H | Н | I | H | E I | I | T | Н | Н |
| | | | <u>-9</u> | H | Ξ | Н | Н | Н | I | H | H | Н | Н | I | I | Н | Ŧ |
| | | | ج ا | Η | Ξ | н | Н | H | Ŧ | Н | H | Н | Н | I | H | Н | H |
| | K 4K | R.R. | 4- | Н | Ŧ | Н | H | Н | Н | Н | ¥ | Н | H | Н | Н | Н | Ŧ |
| | | | 3- | Н | Н | Н | Н | H | I | Н | H | I | Н | I | I | Ξ | Ξ |
| | | | -5- | НО | НО | ᆼ | Ю | НО | но | HO | ЮН | НО | НО | НО | НО | HO | 용 |
| | | 化合 | 想No. | - | 2 | က | 4 | 2 | 9 | 7 | 8 | 6 | 9 | 11 | 12 | 13 | 14 |

[0010]

7

【表102】

I エエ I エーエーエ 용명용 HO 동|동|동|동|동|동|동|동 I エエエ エ|エ|エ|エ|エ Ξ I I I I S S S SO₂ SO တ္ထ SO တ လ S 第1数(しむぎ) Έ. エ I **ਲੰ** ਲੰ ~ エ I エ エーエーエ エ ェ I I ОСН OCH, HO I I I I I このの高品品に OCH OCH, OCH I I I 工 I I I I I I Η x I I I I 딩딩 등 딩딩 동 占 등 공 동 동 등 동 동 동 16 8 24 25 28 8 8 8 32 33 35 8 27 34 31

[0011]

【表103】

Н 된 B 동 동 핑 딩 동 동 ਝੂ ਤੂ ਤਿੰ 리리리 エ I I I . 문 cH₃ CH3 동 P エ |エ|エ| エエ **SO**2 ပ္တ SO2 SO₂ SO₂ SO2 လူလ SOS ဟ 第1数(しがむ) ፚ Τ 되되도 I II ı I I I エエエエエ I 임임은 임임은 I I 등 몽 동 P 동 윤 핑핑 등 H 딩 | 포| 포| 포| 포| 포 စ္က ₹ 44 20

[0012]



【表104】

딩 동 동동 동 F ᆼ 동 등 I I I ェ エ I エエエ I エエ エ I SO₂ SO2 **SO**2 **SO**₂ SO S 第1数(しがき) ~~ I エエ ~ I I I エーエーエ ਝੂ ਝੂ ច ਠ 디프 еноо OCH, OCH, I 동동동동 동동동동 등 동 I I I ェ I I I I I I エ I 69 69 8 8 2 64

[0013]

【表105】

동동 임임을 등 र्ही हैं 디디디디 동 동 윈윈 I SO2 **SO**2 S SO, 2 လူလ တ္တတ္တ S 第1数(しむむ) ਝੁੰ GH3 Ē I I I I I エエ エエ I I I 윈윈운 동 된임된 동 동 동 동 I I I 工 I I I 8 2 88 84 88 88 88 93 95 96 87 92 94 9

[0014]



【表106】

임임은 HO 동동동 윈윤 동 ェ I I I [포|피피포|피|포|포|포 I エーエーエ S S S 第1数(しむぎ) I |되되エ|エ|エ|エ|되エ|エ|エ|エ|エ|エ 동동동 동 ᆼ **ਸੂ** 2 දු ඉදු ඉදු ඉදු I エエエエエ

[0015]



동 윉되되도 동 동동 임임 된 히히히 P 딩딩 エーエ SO₂ SOS 第1数(しがむ) \mathbb{F}_2 エエ エ III 동 등 등 등 등 등 동 임임임 エ I I リエコ エエエエエ I 56 130 15 135 135 132 36 138 142 143 144 127 137 141

[0016]

【表201】

| | | _ | | | _ | | _ | | | | | | | _ | | _ | _ |
|-----|---|------------------|----------------|-----|-----|-----------------|-----|-----|--------|-----|-----|-----------------|-------------------|-------------------|-------------------|------|------|
| | | | 9 | Н | Н | I | I | H | Ξ | I | I | I | I | ェ | Ξ | I | 포 |
| 第2表 | | | 5- | Н | Н | I | Н | I | I | Н | H | I | Ξ | Ι | I | Ι | 되 |
| | z 8 8 | R ⁵ R | 4- | ЮН | ЮН | Ю | НО | НО | ЮН | ЮН | Ю | Ю | НО | ᆼ | ОН | ОН | ᆼ |
| | | | 3 - | Н | Н | Ι | Н | Н | Н | H | I | н | H | I | H | I | Ξ |
| | | | 2- | H | I | Н | I | Ŧ | I | I | Н | H | Н | I | H | H | Ŧ |
| | $R^{3} \xrightarrow{R^{7}} C \xrightarrow{R^{1}} C \xrightarrow{R^{2}} C \xrightarrow{R^{2}} C$ | _ | 7 | S | SO | SO ₂ | S | SO | SO_2 | S | S0 | SO ₂ | S | SO | SO ₂ | S | SO |
| | | - | = | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | - | 1 | 1 | - | - | - | - |
| | | 20 | צ | Н | H | H | Н | H | I | H | Ή | Ŧ | н | Н | н | Н | 王 |
| | | 7 | Ľ | Н | Н | Н | Н | I | I | H | Ŧ | I | Н | H | н | Н | Ŧ |
| | | ٦, | צ | Н | Н | H | H | Н | н | CH3 | CH3 | CH3 | н | н | Н | Н | Ξ |
| | | 40.60 | א, ד | H | H | Ι | I | H | Ŧ | Ξ | Ι | I | 4-CH ₃ | 4-CH ₃ | 4-CH ₃ | 4-CI | 4-CI |
| | | 化合 | 想No. | 145 | 146 | 147 | 148 | 149 | 150 | 151 | 152 | 153 | 154 | 155 | 156 | 157 | 158 |

[0017]

【表202】

第2数(しづき)

등 임임 हाहाहाहाहा 임원 I SO₂ လ လ SO s SO₂ c r r r III Έ 프 프 프 트 등 등 등 등 프 프 프 शुशुशुब्दाद्वाद्वानाना हु 4-0CH3 4-0CH₃ 4-0CH₃ 4-CI 2-0H 2-0H 2-0H R³,R4 2-0H 2-0H 2-0H 2-0H 유승무 3-0H 3-OH 159 160 165 166 168 169

[0018]



【表203】

| エ| エ |피피エ|エ|エ|エ|エ [포|포|포|포|포|포|포|포 第2数(しんむ) ď 피피[피]피]피[피] エーエーエーエーエ エエエエ र भुशुष्ट्य या माम शुशुश्चय य 유 3-0H 4-0H 유 구 4-0H 4-0H 3-0H 8 188 192 189 187

[0019]

以下、具体的に実施例をあげて発明の詳細について述べるが、必ずしもそれだけに限定されるものではない。

[0020]

実施例1

2 ′-ヒドロキシ-2- (4-ヒドロキシフェニルチオ) アセトフェノンの合

成(化合物No.4)

撹拌機、温度計を備えた200m1の4ロフラスコに4ーメルカプトフェノール10.0g(79.4mmo1)、水酸化カリウム5.3g(80.4mmo1)、メタノール100m1を常温で添加した。水酸化カリウムが溶解したのを確認後、内温を10℃まで冷却し2´ーヒドロキシフェナシルブロミド16.9g(78.6mmo1)を添加し、常温で3時間撹拌した。反応終了後、メチルイソブチルケトン(以下MIBK)で抽出し、減圧下でMIBKを留去し、トルエンで再結晶して2´ーヒドロキシー2ー(4ーヒドロキシフェニルチオ)アセトフェノン 19.0gを得た。収率は93%、融点は139-141℃であった。

[0021]

実施例2

 2^{\prime} ーヒドロキシー 2 ー 2 (4 ーヒドロキシフェニルスルフィニル)アセトフェ ノンの合成(化合物 1 o 2)

撹拌機、温度計を備えた100m1の4口フラスコに2′ーヒドロキシー2ー(4-ヒドロキシフェニルチオ)アセトフェノン6.0g(23.1mmo1)、酢酸50m1を常温で添加した。この溶液に30%過酸化水素水2.8g(24.7mmo1)を添加し、常温で12時間撹拌した。反応終了後、ジメチルスルフィド0.5gを添加し、MIBKで抽出した。MIBK層を数回水洗し、炭酸水素ナトリウム水溶液で洗浄後、減圧下でMIBKを留去し、酢酸エチルで再結晶して2′ーヒドロキシー2ー(4-ヒドロキシフェニルスルフィニル)アセトフェノン 4.5gを得た。収率は71%、融点は166-167℃であった

[0022]

実施例3

撹拌機、温度計を備えた100mlの4口フラスコに2´ーヒドロキシー2ー(4-ヒドロキシフェニルチオ)アセトフェノン6.0g(23.1mmol)

、クロロホルム 50m1 を常温で添加した。この溶液に 75%m-クロロ過安息香11.2g(48.5mmo1) を常温で少量づつ添加し、4時間撹拌した。 反応終了後、ジメチルスルフィド 0.5g を添加し、クロロホルムで抽出した。 クロロホルム層を炭酸水素ナトリウム水溶液で洗浄後、減圧下でクロロホルムを留去し、トルエンで再結晶して 2^r ーヒドロキシー 2-(4- ヒドロキシフェニルスルホニル)アセトフェノン 5.0g を得た。収率は 74%、融点は 143-146 であった。

[0023]

実施例4

4 ´ーヒドロキシー2- (4-ヒドロキシフェニルチオ) アセトフェノンの合成(化合物No. 100)

 $2^{'}$ - ヒドロキシフェナシルブロミドを $4^{'}$ - ヒドロキシフェナシルブロミドに変えた以外は実施例1 と同様に反応及び処理を行い、 $4^{'}$ - ヒドロキシー2 - (4 - ヒドロキシフェニルチオ) アセトフェノン 17.5 gを得た。収率は8 6%、融点は194-197であった。

[0024]

実施例5

 4^{\prime} ーヒドロキシー 2 - (4 - ヒドロキシフェニルスルフィニル)アセトフェノン(化合物 N o. 1 0 1 0

 $2^{'}$ ーヒドロキシー2ー(4ーヒドロキシフェニルチオ)アセトフェノンを $4^{'}$ ーヒドロキシー2ー(4ーヒドロキシフェニルチオ)アセトフェノンに変えた以外は実施例2と同様にして、 $4^{'}$ ーヒドロキシー2ー(4ーヒドロキシフェニルスルフィニル)アセトフェノン4. 8 g 得た。収率7 5 %。融点:1 6 7 - 1 6 9 $\mathbb C$ 、

[0025]

実施例 6

 $4^{'}$ ーヒドロキシー2ー(4ーヒドロキシフェニルスルホニル)アセトフェノンの合成(化合物No. 1 0 2)

2 '-ヒドロキシ-2-(4-ヒドロキシフェニルチオ) アセトフェノンを4

 $^{'}$ ーヒドロキシー2ー($^{'}$ ーヒドロキシフェニルチオ)アセトフェノンに変えた 以外は実施例 $^{'}$ と同様にして、 $^{'}$ ーヒドロキシー2ー($^{'}$ ーヒドロキシフェニ ルスルホニル)アセトフェノン $^{'}$ 5. $^{'}$ 4 g を得た。収率は $^{'}$ 8 0 %、融点は $^{'}$ 2 $^{'}$ 1 $^{'}$ $^{'}$ であった。

[0026]

実施例7

2'-(4-ヒドロキシフェニルチオ) アセタニリドの合成(化合物No.145)

撹拌機、温度計を備えた200m1の4ロフラスコに4ーメルカプトフェノール10.0g(79.4mmo1)、水酸化カリウム5.3g(80.4mmo1)、メタノール100m1を常温で添加した。水酸化カリウムが溶解したのを確認後、内温を10℃まで冷却し2′ークロロアセタニリド13.3g(78.6mmo1)を添加し、常温で3時間撹拌した。反応終了後、MIBKで抽出し、減圧下でMIBKを留去し、MIBKとトルエンの混合溶媒で再結晶して2′ー(4ーヒドロキシフェニルチオ)アセタニリド 16.7gを得た。収率は82%、融点は152-153℃であった。

[0027]

実施例8

 $2^{'}$ -(4-ヒドロキシフェニルスルフィニル) アセタニリドの合成(化合物 No. 146)

撹拌機、温度計を備えた100m1の4口フラスコに2´ー(4ーヒドロキシフェニルチオ)アセタニリド6.0g(23.2mmo1)、酢酸50m1を常温で添加した。この溶液に30%過酸化水素水2.8g(24.7mmo1)を添加し、常温で12時間撹拌した。反応終了後、ジメチルスルフィド0.5gを添加し、MIBKで抽出した。MIBK層を数回水洗し、炭酸水素サトリウム水溶液で洗浄後、減圧下でMIBKを留去と、MIBKで再結晶して2´ー(4ーヒドロキシフェニルスルフィニル)アセタニリド 5.9gを得た。収率は93%、融点は208-210℃であった。

[0028]

実施例9

2 ´- (4-ヒドロキシフェニルスルホニル) アセタニリドの合成(化合物No. 147)

撹拌機、温度計を備えた100mlの4ロフラスコに2´ー(4ーヒドロキシフェニルチオ)アセタニリド6.0g(23.2mmol)、酢酸50mlを常温で添加した。この溶液に30%過酸化水素水5.6g(49.4mmol)を添加し、常温で4時間撹拌した後、100℃で5時間撹拌した。反応終了後、ジメチルスルフィド0.5gを添加し、MIBKで抽出した。MIBK層を数回水洗し、炭酸水素ナトリウム水溶液で洗浄後、減圧下でMIBKを留去し、MIBKで再結晶して2´ー(4ーヒドロキシフェニルスルホニル)アセタニリド 5.8gを得た。収率は86%、融点は188-189℃であった。

[0029]

本発明は発色性染料を使用する記録材料ならばどの様な用途にも使用でき、例えば感熱記録材料または感圧複写材料等に利用することができる。

本発明を感熱記録紙に使用する場合には、既知の画像保存安定剤、顕色剤の使用方法と同様に行えばよく、例えば、本発明の化合物の微粒子および発色性染料の微粒子のそれぞれをポリビニルアルコールやセルロールなどの水溶性結合剤の水溶液中に分散された懸濁液を混合して紙等の支持体に塗布して乾燥することにより製造できる。

[0030]

発色性染料に対する一般式 [I] 表される化合物の使用割合は、発色性染料 1 重量部に対して、一般式 [I] 表される化合物が 1 ~ 1 0 重量部、好ましくは 1 . 5~5 重量部である。

本発明の記録材料の中には、発色性染料並びに、一般式 [I] で表される化合物以外に公知の顕色剤、画像安定剤、増感剤、填料、分散剤、酸化防止剤、減感剤、粘着防止剤、消泡剤、光安定剤、蛍光増白剤等を必要に応じ1種または2種以上含有させることができる。

[0031]

これらの薬剤は、発色層中に含有せしめてもよいが、多層構造からなる場合に

は、例えば保護層等任意の層中に含有せしめてもよい。特に、発色層の上部および/または下部にオーバーコート層やアンダーコート層を設けた場合、これらの層には酸化防止剤、光安定剤などを含有することができる。さらに、酸化防止剤、光安定剤は必要に応じマイクロカプセルに内包するかたちで、これらの層に含有させることができる。

[0032]

本発明の記録材料に使用される発色性染料としては、フルオラン系、フタリド系、ラクタム系、トリフェニルメタン系、フェノチアジン系、スピロピラン系等のロイコ染料を挙げることができるが、これらに限定されるものではなく、酸性物質である顕色剤と接触することにより発色する発色性染料であれば使用できる。また、これらの発色性染料は単独で使用し、その発色する色の記録材料を製造することは勿論であるが、それらの2種以上を混合使用することができる。例えば赤色、青色、緑色の3原色の発色性染料または黒発色染料を混合使用して真に黒色に発色する記録材料を製造することができる。

[0033]

これらの染料のうち、フルオラン系のものを例示すれば、

- 3-ジエチルアミノー6-メチル-7-アニリノフルオラン、
- 3-ジブチルアミノー6-メチルー7-アニリノフルオラン、

- - 3-ジエチルアミノ-7-(o-クロロアニリノ)フルオラン、
 - **3-ジブチルアミノ-7-(o-クロロアニリノ)フルオラン、**
 - 3-(N-エチル-p-トルイジノ)-6-メチル-7-アニリノフルオラン
 - 3-(N-シクロヘキシル-N-メチルアミノ)-6-メチル-7-アニリノ

フルオラン、

[0034]

- 3-ピロリジノー6-メチルー7-アラリノフルオラン、
- 3-ピペリジノー6-メチルー7-アラリノフルオラン、
- 3-ジメチルアミノー7-(m-トリフロロメチルアニリノ)フルオラン、
- 3-ジペンチルアミノー6-メチルー7-アニリノフルオラン、
- $3 (N x + x + y)^2 (N x + y)^2 (N$
 - 3-ジブチルアミノ-7-(o-フロロアニリノ)フルオラン、
 - 3-ジエチルアミノベンゾ [a] フルオラン、
 - 3-ジメチルアミノー6-メチルー7-クロロフルオラン、
 - 3-ジエチルアミノー5-メチルー7-ジベンジルアミノフルオラン、
 - 3-ジエチルアミノ-7-ジベンジルアミノフルオラン、
 - 3-ジエチルアミノ-5-クロロフルオラン、
 - $3-\Im x + \Im x + \Im x = 3-\Im x + \Im x + \Im x + \Im x + \Im x = 3-\Im x + \Im x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x + 2 x$
 - 3, 6-ドメトキシフルオラン
- 2, 4-ジメチル-6-(4-ジメチルアミノフェニル) アミノフルオラン等が挙げられる。

[0035]

また、近赤外吸収染料としては、

- 3-(4-(4-(4-P-1)/2)-P-1/2) P-1/2-6-y+y-7-2-1/2 P-1/2-6-y+y-7-2-1/2
- 3, $3 \forall \lambda$ (2 (4 $\forall \lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$) $-2 (4 \lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$) $-2 (4 \lambda \lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$) $-2 (4 \lambda \lambda \lambda \lambda$ + $\lambda \lambda$ +
- 3, 6, 6 ' トリス(ジメチルアミノ)スピロ〔フルオレン- 9, 3 ' 7 タリド〕等が挙げられる。

その他、3, 3-ビス(4'-ジェチルアミノフェニル)-6-ジェチルアミノフタリドなども挙げられる。

[0036]

前記の顕色剤としては、ビスフェノールA、4,4′-secーブチリデンビ スフェノール、4,4'ーシクロヘキシリデンビスフェノール、2,2ージメチ N-3, 3-ビス(4-ヒドロキシフェニル) ブタン、2, <math>2'-ジヒドロキシジフェニル、ペンタメチレンービズ (4ーヒドロキシベンゾエート) 、2.2-ジメチルー3,3-ジ(4-ヒドロキシフェニル)ペンタン、2,2-ジ(4-ヒドロキシフェニル)ヘキサン等のビスフェノール化合物、安息香酸亜鉛、4-ニトロ安息香酸亜鉛等の安息香酸金属塩、4-(2-(4-メトキシフェニルオ キシ)エチルオキシ)サリチル酸などのサリチル酸類、サリチル酸亜鉛、ビス〔 4- (オクチルオキシカルボニルアミノ) -2-ヒドロキシ安息香酸] 亜鉛等の サリチル酸金属塩、4,4'ージヒドロキシジフェニルスルホン、2,4'ージ ヒドロキシジフェニルスルホン、4-ヒドロキシー4′ーメチルジフェニルスル ホン、4-ヒドロキシー4'-イソプロポキシジフェニルスルホン、4-ヒドロ キシー4'ーベンジルオキシジフェニルスルホン、4ーヒドロキシー4'ーブト キシジフェニルスルホシ、4:44 - ジヒドロキシ-3,3' - ジアリルジフェ ニルスルホン、3,4-ジヒドロキシ-4'-メチルジフェニルスルホン、4, 4' -ジヒドロキシー3, 3', 5, 5' -テトラブロモジフェニルスルホシ等 のヒドロキシスルホン類、4ーヒドロキシフタル酸ジメチル、4ーヒドロキシフ タル酸ジシクロヘキシル、4-ヒドロキシフタル酸ジフェニル等の4-ヒドロキ シフタル酸ジエステル類、2-ヒドロキシ-6-カルボキシナフタレン等のヒド ロキシナフトエ酸のエステル類、ヒドロキシアセトフェノン、pーフェニルフェ ノール、4-ヒドロキシフェニル酢酸ベンジル、p-ベンジルフェノール、ハイ ドロキノンーモノベンジルエーテル、更にトリブロモメチルフェニルスルホン等 のトリハロメチルスルホン類、4,4'-ビス(p-トルエンスルホニルアミノ カルボニルアミノ)ジフェニルメタン等のスルホニルウレア類、テトラシアノキ ノジメタン類、 2, 4 - ジヒドロキシー 2′ - メトキシベンズアニリド、または 式 [IV]、

【化6】

で表わされるジフェニルスルホン架橋型化合物もしくはそれらの混合物等を挙げることができる。

[0037]

画像安定剤としては、4ーベンジルオキシー4′ー(2ーメチルグリシジルオキシ)ージフェニルスルホン、4,4′ージグリシジルオキシジフェニルスルホン、などのエポキシ基含有ジフェニルスルホン類、1,4ージグリシジルオキシベンゼン、4ー(αー(ヒドロキシメチル)ベンジルオキシ)ー4′ーヒドロキシジフェニルスルホン、2ープロパノール誘導体、サリチル酸誘導体、オキシナフト工酸誘導体の金属塩(特に亜鉛塩)、その他水不溶性の亜鉛化合物等を挙げることができる。

[0038]

チルフェニルービフェニルエーテル、2, 2-ビス(3, 4-ジメチルフェニル) エタン、2, 3, 5, 6-テトラメチル-<math>4'-メチルジフェニルメタン等を挙げることができる。

[0039]

填料としては、シリカ、クレー、カオリン、焼成カオリン、タルク、サテンホワイト、水酸化アルミニウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、酸化亜鉛、酸化チタン、硫酸バリウム、珪酸マグネシウム、珪酸アルミニウム、プラスチックピグメントなどが使用できる。特に本発明の記録材料ではアルカリ土類金属の塩が好ましい。さらに炭酸塩が好ましく、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウムなどが好適である。填料の使用割合は、発色染料1重量部に対して0.1~15重量部、好ましくは1~10重量部である。また、上記その他の填料を混合して使用することも可能である。

[0040]

分散剤としては、スルホコムク酸ジオクチルナトリウム等のスルホョハク酸エステル類、ドデシルベンゼシスルホン酸オトリウム、ラウリルアルコール硫酸エステルのナトリウム塩、脂肪酸塩等を挙げることができる。

[0041]

酸化防止剤としては 2 、

[0042]

減感剤としては脂肪族高級アルコール、ポリエチレングリコール、グアニジン 誘導体等を挙げることができる。

粘着防止剤としてはステアリン酸、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸カルシウ

ム、カルナウバワックス、パラフィンワックス、エステルワックス等を例示する ことができる。

[0043]

光安定剤としては、フェニルサリシレート、p-tertーブチルフェニルサ リシレート、pーオクチルフェニルサリシレートなどのサリチル酸系紫外線吸収 剤、2,4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベン ゾフェノン、2-ヒドロキシー4-ベンジルオキシベンゾフェノン、2-ヒドロ キシー4-オクチルオキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシー4-ドデシルオキ シベンゾフェノン、2,2'ージヒドロキシー4ーメトキシベンゾフェノン、2 , 2^{\prime} -ジヒドロキシ-4, 4^{\prime} -ジメトキシベンゾフェノン、2 -ヒドロキシ -4-メトキシ-5-スルホベンゾフェノン等のベンゾフェノン系紫外線吸収剤 、2-(2'-ヒドロキシ-5'-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシー5'-tertーブチルフェニル) ベンゾトリアゾール、 トリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3'-tertーブチル-5'-メチ ルフェニル) -5-クロロベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3' ,5' ージーtertーブチルフェニル)-5-クロロベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3',5'-ジ-tert-アミルフェニル) ベンゾトリアゾール、2- [2'ーヒドロキシー3'-(3", 4", 5", 6"ーテト ラヒドロフタルイミドメチル)-5′-メチルフェニル〕ベンゾトリアゾール、 2-(2'-ヒドロキシ-5'-tert-オクチルフェニル) ベンゾトリアゾ -ル、2-[2'-ヒドロキシ-3', 5'-ビス(α , α -ジメチルベンジル **)フェニル】-2H-ベンゾトリアゾール、2-(2′-ヒドロキシ-3′-ド** デシルー5'ーメチルフェニル)ベンゾトリアゾール、2-(2'ーヒドロキシ -3' -ウンデシルー5' -メチルフェニル) ベンゾトリアゾール、2-(2')ーヒドロキシー3′ーウンデシルー5′ーメチルフェニル) ベンゾトリアゾール 、2-(2'-ヒドロキシ-3'-トリデシル-5'-メチルフェニル)ベンゾ トリアゾール、2-(2'-ヒドロキシ-3'-テトラデシル-5'-メチルフ ェニル) ベンゾトリアゾール、2-(2'-ヒドロキシー3'-ペンタデシルー

5′ーメチルフェニル) ベンゾトリアゾール、2-(2′-ヒドロキシ-3′-ヘキサデシル-5′-メチルフェニル) ヘンゾトリアゾール、2-[2′-ヒド ロキシー4′-(2″-エチルヘキシル)オキシフェニル]ベンゾトリアゾール 、2-〔2'-ヒドロキシ-4'-(2"-エチルヘプチル)オキシフェニル] ベンゾトリアゾール、2-[2'-ヒドロキシ-4'-(2"-エチルオクチル) オキシフェニル] ベンゾトリアゾール、2- [2'-ヒドロキシ-4'-(2 ″ープロピルオクチル)オキシフェニル〕ベンゾトリアゾール、2-〔2.-ヒ ドロキシー4′ー(2″ープロピルヘプチル)オキシフェニル]ベンゾトリアゾ ール、2- [2'-ヒドロキシ-4'-(2"-プロピルヘキシル)オキシフェ ニル〕ベンゾトリアゾール、2- [2'-ヒドロキシ-4'-(1"-エチルへ キシル)オキシフェニル]ベンゾトリアゾール、2- [2'-ヒドロキシ-4' -(1"-エチルヘプチル) オキシフェニル] ベンゾトリアゾール、<math>2-[2"ーヒドロキシー4′ー(1′ーエチルオクチル)オキシフェニル]ベンゾトリア ゾール、2-[2'-ヒドロキシ-4'-(1''-プロピルオクチル) オキシフ エニル] ベンゾトリアゾール、2-[2'-ヒドロキシ-4'-(1''-プロピルヘプチル)オキシフェニル〕ベンゾトリアゾール、2-〔2′ーヒドロキシー 4′-(1″-プロピルヘキシル)オキシフェニル]ベンゾトリアゾール、ポリ エチレングリコールとメチルー3-[3-tert-ブチルー5-(2H-ベン ゾトリアゾールー2ーイル) -4-ヒドロキシフェニル] プロピオネートとの縮 合物などのベンゾトリアゾール系紫外線吸収剤、2′-エチルヘキシル-2-シ アノー3,3-ジフェニルアクリレート、エチルー2-シアノー3,3-ジフェ ニルアクリレートなどのシアノアクリレート系紫外線吸収剤、ビス(2,2,6 , 6-テトラメチル-4-ピペリジル) セバケート、コハク酸-ビス(2, 2, 6, 6ーテトラメチルー4ーピペリジル) エステル、2ー (3, 5ージーtert-ブチル)マロン酸-ビス(1,2,2,6,6-ペンタメチル-4-ピペリ ジル)エステルなどのヒンダードアミン系紫外線吸収剤などを挙げることができ る。

[0044]

蛍光染料としては、以下のものが例示できる。

, 4' -ビス〔2-アニリノー4 - (2 -ヒドロキシエチル)アミノー1, 3, 5 -トリアジニルー6 -アミノ)スチルベンー2, 2' -ジスルホン酸=二ナトリウム塩

, 4' -ビス〔2-アニリノー4 -ビス(ヒドロキシエチル)アミノー1, 3, 5 -トリアジニルー6 -アミノ)スチルベンー2, 2' -ジスルホン酸=二ナトリウム塩

, 4' ービス〔2ーメトキシー4ー(2ーヒドロキシエチル)アミノー1, 3, 5ートリアジニルー6ーアミノ)スチルベンー2, 2' ージスルホン酸=二ナトリウム塩

, 4' -ビス〔2-メトキシー4-(2-ヒドロキシプロピル)アミノー1, 3, 5-トリアジニルー6-アミノ)スチルベンー2, 2'-ジスルホン酸= 二ナトリウム塩

, 4' -ビス〔2-m-スルホアニリノー4-ビス(ヒドロキシエチル)アミノー1, 3, 5-トリアジニルー6-アミノ〕スチルベンー2, 2' -ジスルホン酸=ニナトリウム塩

4-[2-p-スルホアニリノー4-ピス (ヒドロキシエチル) アミノー1, 3, 5-トリアジニルー6-アミノ] <math>-4'-[2-m-スルホアニリノー4-ピス (ヒドロキシエチル) アミノー1, 3, 5-トリアジニルー6-アミノ] スチルベンー2, <math>2'-ジスルホン酸=四ナトリウム塩

[0045]

, 4' -ビス〔2-p-スルホアニリノー4-ビス(ヒドロキシエチル)アミノー1, 3, 5-トリアジニルー6-アミノ〕スチルベンー2, 2'-ジスルホン酸=四ナトリウム塩

, 4' -ピス〔2-(2, 5-ジスルホアニリノ)-4-フェノキシアミノ-1, 3, 5-トリアジニル-6-アミノ〕スチルベン-2, 2'-ジスルホン酸=六ナトリウム塩

, 4' -ピス [2-(2,5-i)スルホアニリノ) -4-(p-i)トキシカルボニルフェノキシ) アミノー 1, 3, 5-トリアジニルー6-アミノ] スチルベン-2, 2' -ジスルホン酸=六ナトリウム塩

4, 4' -ビス〔2-(p-スルホフェノキシ)-4-ビス(ヒドロキシエチル)アミノ-1, 3, 5-トリアジニル-6-アミノ〕スチルベン-2, 2' -ジスルホン酸=四ナトリウム塩

4, 4' -ビス〔2-(2, 5-ジスルホアニリノ)-4-ホルマリニルアミノー1, 3, 5-トリアジニル-6-アミノ〕スチルベン-2, 2' -ジスルホン酸=六ナトリウム塩

4, 4' -ビス〔2-(2, 5-ジスルホアニリノ) -4-ビス(ヒドロキシエチル)アミノー1, 3, 5-トリアジニルー6-アミノ〕スチルベンー2, 2 ' -ジスルホン酸=六ナトリウム塩

[0046]

本発明の化合物を感圧複写紙に使用するには既知の画像保存安定剤、顕色剤あるいは増感剤を使用する場合と同様にして製造できる。例えば、公知の方法によりマイクロカプセル化した発色性染料を適当な分散剤によって分散し、紙に塗布して発色剤シートを作製する。また、顕色剤の分散液を紙に塗布して顕色剤シートを作製する。その際、本発明の化合物を画像保存安定剤をして使用する場合には発色剤シートあるいは顕色剤シートのいずれの分散液中に分散して使用してもよい。このようにして作製された両シートを組合せて感压複写紙が作製される。感圧複写紙としては、発色性染料の有機溶媒溶液を内包するマイクロカプセルを下面に塗布担持している上用紙と顕色剤(酸性物質)を上面に塗布担持している下用紙とからなるユニットでも、あるいはマイクロカプセルと顕色剤とが同一の紙面に塗布されているいわゆるセルフコンテントペーパーであってもよい。

[0047]

その際使用する顕色剤または本発明化合物と混合して使用する顕色剤としては 従来既知のものが用いられ、例えば酸性白土、活性白土、アパタルジャイト、ベ ントナイト、コロイダルシリカ、珪酸アルミニウム、珪酸マグネシウム、珪酸亜 鉛、珪酸錫、焼成カオリン、タルク等の無機酸性物質、蓚酸、マレイン酸、酒石 酸、クエン酸、コハク酸、スイアリン酸等の脂肪族カルボン酸、安息香酸、ptertーブチル安息香酸、フタル酸、没食子酸、サリチル酸、3ーイソプロピ ルサリチル酸、3ーフェニルサリチル酸、3ーシクロヘキシルサリチル酸、3, 5-ジーtert-ブチルサリチル酸、3-メチル-5-ベンジルサリチル酸、3-フェニル-5-(2,2-ジメチルベンジル)サリチル酸、3,5-ジー(2-メチルベンジル)サリチル酸、2-ヒドロキシ-1-ベンジル-3-ナフトエ酸等の芳香族カルボン酸、これら芳香族カルボン酸の亜鉛、マグネシウム、アルミニウム、チタン等の金属塩、p-フェニルフェノールーホルマリン樹脂、p-ブチルフェノールーアセチレン樹脂等のフェノール樹脂系顕色剤、これらフェノール樹脂系顕色剤と上記芳香族カルボン酸の金属塩との混合物等を挙げることができる。

[0048]

【実施例】

以下、本発明の記録材料に着いて実施例を挙げて詳細に説明するが、本発明は 必ずしもこれだけに限定されるものではない。なお、以下に示す部は重量基準で ある。

実施例10 (感熱記録紙の作製)

染料分散液(A液)

3 - ジーn - ブチルアミノー6 - メチルー7 - アニリノフルオラン 16部ポリビニルアルコール10%水溶液 84部

顕色剤分散液(B液)

 4^{\prime} ーヒドロキシー 2 ー (4 ーヒドロキシフェニルスルホニル)アセトフェノン(化合物 No. 102) 16部

ポリビニルアルコール10%水溶液

84部

填料分散液(C液)

炭酸カルシウム 27.8部

ポリビニルアルコール10%水溶液 26.2部

水 71部

[0049]

塗布液は、A~C液の各組成の混合物をそれぞれサンドグラインダーで充分に 摩砕して、A~C液の各成分の分散液を調整し、A液1重量部、B液2重量部、 C液4重量部を混合して調整した。この塗布液をワイヤーロッド(No. 12) を使用して白色紙に塗布・乾燥した後、カレンダー掛け処理をして、感熱記録紙を作製した(塗布量は乾燥重量で約5.5 g/m^2)。

[0050]

実施例11

実施例10の顕色剤の代りに3´-ヒドロキシー2-(4-ヒドロキシフェニルスルホニル)アセトフェノン(化合物No.57、融点189~192℃)を用いた以外は、実施例10と同様にして本発明の感熱記録材料を作成した。

[0051]

実施例12

実施例10の顕色剤の代りに2'-(4-ヒドロキシフェニルスルホニル)ア セタニリド(化合物No.147)を用いた以外は、実施例10と同様にして本 発明の感熱記録材料を作成した。

[0052]

比較例1

実施例10の顕色剤の代りに4-ヒドロキシ-4'-イソプロポキシジフェニルスルホンを用いた以外は、実施例10と同様にして本発明の感熱記録材料を作成した。

[0053]

比較例2

実施例10の顕色剤の代りに2,4'-ジヒドロキシジフェニルスルホンを用いた以外は、実施例10と同様にして本発明の感熱記録材料を作成した。

[0054]

比較例3 (特許公報2615073号記載の化合物)

実施例10の顕色剤の代りに2-(4-ヒドロキシフェニルスルホニル)アセトフェノンを用いた以外は、実施例10と同様にして本発明の感熱記録材料を作成した。

[0055]

比較例4(特開平2-204091号公報記載の化合物)

実施例10の顕色剤の代りに3',4'-ジヒドロキシー2-(4-ヒドロキ

シフェニルスルホニル)アセトフェノンを用いた以外は、実施例10と同様にして本発明の感熱記録材料を作成した。

[0056]

試験例1 (発色感度の比較)

実施例10~12、比較例1~4で作製した感熱記録紙について、感熱紙発色 試験装置(大倉電気製 TH-PMD型)を使用し、1ドットあたり0.38m J、0.50mJの条件で発色させその印字濃度をマクベス濃度計RD-514 で測定した。その結果を第3表に示した。

[0057]

試験例2 (耐湿熱性試験)

実施例10~12、比較例1~4で作製した感熱記録紙について、試験例1 と同様にして発色させた。その発色画像について恒温恒湿槽GL-42型(二葉科学製)中、50℃、湿度80%の条件で耐湿熱性試験を行い、2、24時間後の発色画像濃度を測定した。その結果を第3表に示した。

[0058]

【表301】

第3表

(発色感度の評価結果)

| | エネルギー量 | | | | | | |
|--------------|------------|------------|--|--|--|--|--|
| | 0.38mj/dot | 0.50mj/dot | | | | | |
| 実施例10 | 0.36 | 0.82 | | | | | |
| 実施例11 | 0.42 | 0.90 | | | | | |
| 実施例12 | 0.36 | 0.90 | | | | | |
| 比較例1 | 0.85 | 1.19 | | | | | |
| 比較例2 | 0.57 | 1.15 | | | | | |
| 比較例3 | 0.88 | 1.19 | | | | | |
| 比較例4 | 0.21 | 0.47 | | | | | |

※数値はマクベス値を表す。

[0059]

試験例3 (耐光試験)

実施例10~12、比較例1~4で作製した感熱記録紙について、試験例1と同様にして発色させた。その発色画像について耐光試験機(スガ試験機(株)製、紫外線ロングライフフェードメエーター FAL-5型)を使用して耐光性試験を行い、48時間後の発色画像濃度を測定した。その結果を第4表に示した。

[0060]

【表401】

(地肌及び画像の評価結果)

第4表

| | | 地 肌 | | 画像 | | | | |
|------------|---------|---------|------|-------|------|--|--|--|
| | オリジナル | 耐湿 | 熟性 | オリジナル | 耐光性 | | | |
| | 3,33,70 | 2hr | 24hr | 13777 | 48hr | | | |
| 実施例10 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 1.13 | 0.95 | | | |
| × 10 01 10 | Y 0.07 | | | | <85> | | | |
| 実施例11 | 0.06 | 0.07 | 0.07 | 1.12 | 0.90 | | | |
| | Y 0.08 | | | | <80> | | | |
| 実施例12 | 0.05 | 0.05 | 0.05 | 1.17 | 0.74 | | | |
| 天服 內 12 | Y 0.08 | | | | <63> | | | |
| 比較例1 | 0.08∉ସ | 0.0,7,, | 0.07 | 1.26 | 0.14 | | | |
| 1042091 | Y 0.10 | | | | <11> | | | |
| 比較例2 | 0.10 | 0.1(0:4 | 0.10 | 1.25 | 0.76 | | | |
| 1042772 | Y 0.12 | | | | <61> | | | |
| 比較例3 | 0.11 | 0.16 | 0.18 | 1.22 | 0.59 | | | |
| 11-1X D10 | Y 0.12 | | | | <48> | | | |
| 比較例4 | 0.09 | 0.09 | 0.09 | 1.06 | 0.72 | | | |
| 11.40 四十 | Y 0.27 | | | | <68> | | | |

※ 数値はマクベス値を表し、く>内は画像残存率を表す。

[0061]

【発明の効果】

本発明のフェノール性化合物を顕色剤として用いた記録材料は、従来知られている記録材料よりも画像の保存安定性が向上し、発色の感度、地肌並びに画像の保存性に優れる記録材料を得ることができる。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 発色感度が高く、かつ地肌及び画像の保存性が優れた記録材料を提供すること。

【解決手段】 記録材料に、一般式 [I]

【化1】

$$\begin{array}{c|c}
R^{3} & & \\
 & \downarrow \\
R^{4} & & \\
 & \downarrow \\
 &$$

[式中、 R^1 、 R^2 は、水素原子、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基を表し、

 \mathbb{R}^3 、 \mathbb{R}^4 は水素原子、水酸基、カルボキシル基、スルファモイル基、ハロゲン原子、 $\mathbb{C}_1^{\sim}\mathbb{C}_6$ アルキル基、 $\mathbb{C}_1^{\sim}\mathbb{C}_6$ アルコキシカルボニル基を表し、

YはCOまたはNR⁵COを表し、

 R^5 は水素原子、 $C_1 \sim C_6$ アルキル基、置換されていてもよいフェニル基、置換されていてもよいベンジル基を表し、

ZはS、SO、SO₂を表し、

m、nは0、1、2の整数を表し、

pは1~6の整数を表し、

m、nが2のときは、 R^3 、 R^4 はそれぞれ同一でも相異なっていてもよい。

ただし、YがCOのとき、(R^3) n は、かならず一つの水酸基を含み、Yが $N\,R^5$ COのとき、(R^3) n、(R^4) mのうち少なくとも一つは水酸基である。]

で表されるフェノール性化合物の少なくとも一種を含有させることにより解決できる。

認定・付加情報

特許出願の番号

平成11年 特許願 第282577号

受付番号

59900968644

書類名

特許願

担当官

第二担当上席 0091

作成日

平成11年10月 7日

<認定情報・付加情報>

【提出日】

平成11年10月 4日

出願人履歴情報

識別番号

[000004307]

1. 変更年月日 1990年 8月22日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都千代田区大手町2丁目2番1号

氏 名

日本曹達株式会社

THIS PAGE BLANK (USPTO)